

生産者の立場から見たIoPプロジェクトの成果と今後への期待

山本 修平 氏（南国市 シシトウ農家）



氏名 やまもと しゅうへい 山本 修平(39歳)

南国市



品目 シシトウ



就農 19年目

農業大学校を卒業後、祖父の元で就農。5年目から、自分でハウス(祖父が使用していた木骨マンモスハウス)を管理しています。



経営規模 14a

① 環境制御技術導入のきっかけ

- ・はじめたころは、環境制御装置などはなく、すべてアナログ(手作業)の環境で管理していました。環境制御装置を導入したのは、**2016年頃、省力化が目的**でした。
- ・水やりや天窓の開け閉めなど、**自動制御により農作業の時間に余裕が生まれ、作物の栽培管理に専念でき、人も雇いやすい環境**になりました。
- ・日々の木の状態や窓の開け閉めなど、今まで体感でやってきたことを自動化しました。機器の調節も体感を大事にしつつ、数字だけに頼るのではなく、これまでの経験も取り入れています。目に見えない部分、生育状況(樹の強さ弱さ、樹のバランス、花と実のバランス、葉面積の状態)を考えて、栽培管理をしています。

② SAWACHI導入のメリットや活用方法

★遠隔でハウス内がわかる！夜に心配でも、ひと目で安心出来ます



- ・家にいながら手軽にスマホを使ってハウスの環境を確認できます。
- ・夕方や夜間などの数値の動きの確認や細かい調整ができるので助かっています。
- ・導入初期のころは警報メールが届いていました。温度がある一定下がると届くようにしてましたが、温度設定の変更や加温機の掃除後にスイッチを入れ忘れたなど、ミスがあったことが分かりました。
- ・今は、**夜寝る前に確認することで、安心材料**にしています。また、**特に、春や秋など夜温が高いときの病気などのリスク回避のため、夜間の湿度の動きなどを見る**ようにしています。
- ・ハウスは、温度を天窓の開度で制御して、水は日射比例灌水装置で日射に応じて自動でかん水します。季節でかん水量は変わりますのでその設定が難しく、これも経験値が必要です。基準のかん水量はあるのですが、勉強会などで得た植物生理と1反あたりのかん水量の目安の資料を参考にして、自分のハウスに合うように設定しています。**経験と勘に頼るだけでなく、実際のデータを確認することで細かな管理ができる**ようになり、段々と収量が多くなりました。

③ SAWACHIの中で特に役に立っている機能 (1)

出荷量の日々の推移やランキングがわかる。また、目標設定機能を活用

●毎朝、出荷量を確認！ 直近ではどのくらい出荷しているのか、県内や産地の動きも確認。



順位	南国市地区	高知県
	1位 / 25人	3位 / 97人
本人		
	kg/10a	前年比
出荷量	4,170.6	-8,351.7
南国市地区		
	kg/10a	前年比
上位10人の平均	2,961.9	-6,600.7
上位30人の平均	2,109.7	-5,458.7
全体の中央値	1,902.8	-5,981.5
高知県		
	kg/10a	前年比
上位10人の平均	4,826.9	-6,438.2
上位30人の平均	3,256.3	-5,690.8
全体の中央値	1,751.3	-2,258.5

2023/06/15

●前年や前月との比較も簡単にできる



- 自分の月別収量の目標値を **SAWACHI**上で設定しておく、設定した目標の達成度合が表示される。

→モチベーションのアップにつながる！



③ SAWACHIの中で特に役に立っている機能（2）

営農情報「**SAWACHIニュース**」 環境制御、病害虫防除などの技術的な情報や、市場・流通関係者からシットウ農家へのPR動画など、SAWACHIを介して得られる情報がある。

2023/07/28 10:47

お知らせ 【非辛みシットウ】南国・香美シットウ部会合同勉強会を開催しました！

イベント情報 | **ピーマン・シットウ** | 中央東農業振興センター | 南国営農経済センタ

今回は、南国・香美シットウ部会合同勉強会についてご紹介します！

7月25日、JA高知県土長地区本部で、初の南国・香美シットウ部会合同勉強会が開催され、生産者20名が参加しました。

流通 【東京情報】 年末に向けてシットウ生産者へのお願い 🙏

ピーマン・シットウ



大田市場シットウ担当者より

④今後の農業経営のビジョン

データや機械を活用するためにも、
技術の向上は欠かせません

やはり基礎となる栽培管理技術が一番大事だと思います。データはそれを良くするための1つの要素であって、いくら機器を使っても、設定する能力がなければ使いこなせません。



- 判断力を養うために勉強会への参加や各メーカーからの情報収集、植物生理学を学ぶことも大切です。就農される方が、データに基づいた栽培管理を行うと、技術習得が早くなります。**指導員も、指導力アップのためにSAWACHI情報を有効に活用して、現地指導に生かして欲しい**です。
- また、30年先もシシトウ栽培を続けていくと、新しいハウスの建築も必要になってきますし、燃油の問題もあり省エネ化を進めて行く必要があります。期待していることは、**もっと画期的な省エネの機器類**です。**化石燃料に頼らないSDGsにも繋がる**環境に配慮したオール電化のハウスができたらいと思います。
- まだハウス内の環境しか見えないので、**今の生育環境が正解なのか判断する能力が必要**になります。大切なのは、樹を見る力です。今は収穫量という結果でしか見られないので、**樹の生理状態を开花や着果などを見てどのくらい収穫できるかを判断**する。そういう**仕組みや画像解析をAIが行う方向**に今後進んでいくと思います。